

平成30年度 学校評価書（年度）

学校教育目標

豊かな人間性を育み、たくましく生き抜いていこうとする生徒の育成

〈今年度の重点目標〉

良さを自覚しながら、一步前に出て活動できる生徒の育成
～「誇り」「深化」「伝統」をキーワードとして～



平成31年2月1日
大館市立北陽中学校

V 評価

A 学校運営の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
	良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
	おおむね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
	やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
努力を要する	1		目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い	

I 組織運営

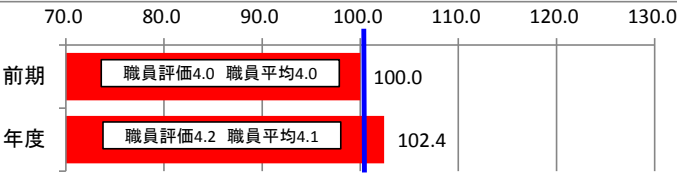
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
「誇り」「深化」「伝統」をキーワードに特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	学級担任と副担任との連携が特色ある学校づくりにつながっている。今後も、意識して週1回実施している学年主任会で、生徒についての情報交換や学年間の連携を一層深めてほしい。校長報「北陽魂」で校長の考えや思いを文章化することで、教職員や生徒たちに明確に伝え、より意識化させるような手立てが取られている。
	年度	おおむね良好	職員会議運営の工夫、学年主任会の定期的な開催等に継続して取り組んできたことで、施策の定着が図られ、確かな成果が上がっている。今後も職員間での意思疎通をきめ細かく実施し、全職員の力を結集した学校運営をお願いしたい。設備管理の面で、消耗品の調整及び施設設備補修等への配当予算額が限られ厳しい状況とは思いますが、生徒が安全で快適な学校生活を過ごすことができるように配慮してほしい。
善自策己評価の概要と学校の改	<p>○開校4年目を迎え、今年度は「誇り」「深化」「伝統」をキーワードに、「よさを自覚」できるような手立てを講じながら取り組んでいる。特に、校長報「北陽魂」については、生徒も興味深く読んでいて、自分たちの良さを自覚するだけでなく、課題を意識することにもつながっている。学年主任会は、生徒支援担当も含め、週1回実施することで、生徒についての情報交換のみならず学年間の連携を図ることができる。主任会での確認をさらに徹底できるように、2学期以降は、学年主任会を月曜開催にしていきたい。また、アンケートから、副担任制の良さは明らかであるが、学年内での連携をさらに意識しより効果的なものにしていきたい。</p> <p>○事務職員との連携により、事務処理負担の軽減がなされ職員は助かっているが、事務職員に任せきりにならず連携するという意識をもつ必要がある。今後も予算執行、設備管理、設備補修等が迅速かつ正確に行われるように努力していきたい。</p> <p>○職員会議については、案件の精査や資料事前渡しにより、時間短縮を図ることができてきた。また、学年主任会を月曜日に設定することで、学年内での連絡の徹底を図り、共通理解につながっている。今後はさらに、全職員で共通理解を図ることができるように運営委員会や学年主任会を機能的に推進し、各担当者から責任をもった提案がなされるよう働きかけていきたい。</p> <p>○事務職員との連携に関しては、職員の意見や要望の吸い上げを強化し、できるだけ職員の要望を反映できるような仕組み作りに努めたい。また、事務職員として、消耗品の在庫管理や整理整頓など先生方が仕事をしやすい環境作りにも配慮していきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 組織的運営体制の確立	(1) 運営方針の浸透	定期的な三役会(校長、教頭、教務主任)の開催と効果的な運営	3	3
	(2) 学年部組織の強化	副担任制を活用した学年組織の強化		
2 諸会議の効果的な運営	(3) 月1回の職員会議運営の工夫	提案事項の事前確認による、機を逃さない指導部長提案の支援	3	4
	(4) 主任層教員間の共通理解の場の確保	定期的な学年主任会と運営委員会の実施		
3 事務職員との連携	(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理	事務職員との連携による事務処理負担の軽減と指導時間の確保	4	3
		定期的な点検による設備管理及び予算管理の適正化		

[1に関連するデータ]

(1) 運営方針の浸透

■ 校務部会、運営委員会、職員会議が機能的に推進され、各担当者から見通しをもった提案、「よさを自覚」させる働きかけが行われていたか。

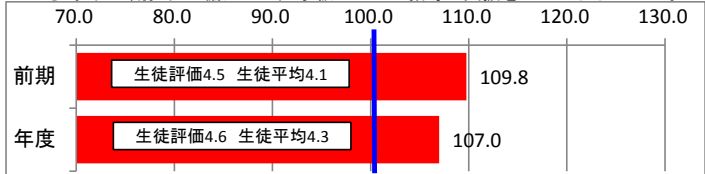


【アンケート種別】 ○生徒 □保護者 ■教職員

【5段階評価】 5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや不十分 1:不十分

(2) 学年部組織の強化

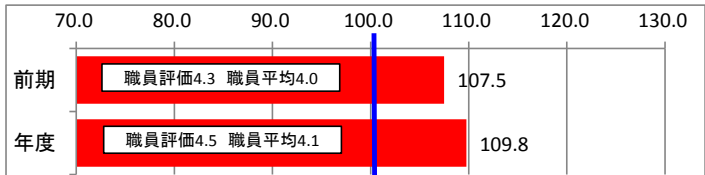
○ 担任と副担任は協力して、学級のために指導や支援をしてくれましたか。



[2に関連するデータ]

(4) 主任層教員間の共通理解の場の確保

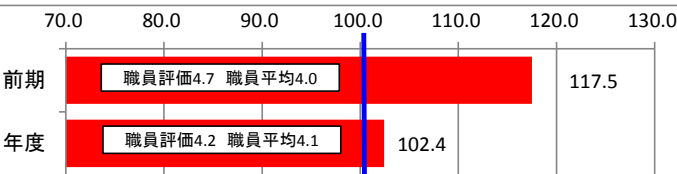
■ 定期的な学年主任会の実施は、学年間の共通理解・共通実践に役立っていたか。



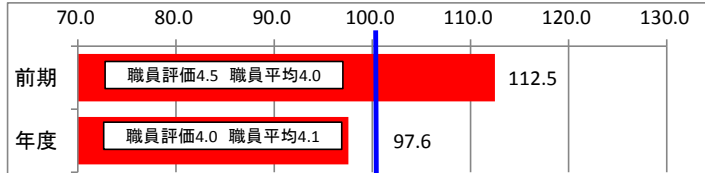
[3に関連するデータ]

(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理

■ 事務職員との連携による事務処理負担の軽減がなされていたか？



■ 配当予算が適切に周知され、消耗品の調整及び施設設備補修等が効果的に行われていたか？



グラフは、職員アンケート全項目の評価平均値を100としたときの、当該項目の評価指数を表している。つまり、指数が100を超えていれば、職員は他の施策よりも良好と判断しており、100に届かない場合はその逆ということになる。

【職員アンケート自由記述より】
○職員会議については、案件の精査、協議案検討優先順位の明確化により時間の縮減に成功している。資料の事前配付により、見通しをもって会議に参加できる体制が整った。
▲職員会議は時間内に終われるようになったが、共通理解できていない部分が多少増えたように感じる。

ア 学校運営の状況

II 教師の研修

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の教育活動のレベルアップのために、教職員の研修が活発に行われている。	前期	おおむね良好	北陽スタイルを共通実践するために、全職員で確認する場が設けられ、共通理解につながっている。生徒による授業評価を見ても、先生方の指導に対して高い評価が出されており、その真摯な取り組みは、生徒・保護者から信頼を得ている。「深い学び」と「確かな学力」のために、時間を工夫した学び合い、授業構成を考え、研修をさらに深めてほしい。
	年度	おおむね良好	良好
自己評価の概要と学校の改善	<p>○全教職員で「北陽スタイル」を共通理解・実践するために、新任の先生方、1年生が2・3年生の授業を参観する機会をもった。「学び合い」や「振り返り」の場面を参観し、「意見のつなぎ合い」等授業スタイルの基本形を確認できた。生徒による授業評価アンケートを見ると、「意見交換を通して学ぶことがたくさんあるので続けてほしい」という教科がある反面、「グループの学び合いや話し合いの時間を増やしてほしい」という意見もある。北陽生がもつ集団の学びの力を、「深い学び」と「確かな学力」につなげるための「学び合い及び振り返りの在り方」を今年度の研修課題として追究していく。</p> <p>○全教職員による授業研究会や相互授業参観を継続して実施することで、授業改善につなげている。保護者アンケート結果から、昨年度前期との比較で「教科指導」に関する評価が上がっている。(A評価17%→22%、B、C評価の割合は同じ、D評価10%→5%)校外での研修成果の共有を図ることで更なる授業改善に努めたい。</p> <p>○生徒による授業評価では、10項目すべての数値が上がっている。中でも(6)「分かりやすい伝えかた」(7)「比べたり、深めたりするような聞き方」(8)「まとめや練習時間の確保」の3項目が伸びている。学力向上フォーラムの一つの契機に、今年度重点である「学び合いや振り返りの在り方」について、全教職員が意識して授業改善に取り組んだ成果と、自身の授業に向かう姿勢が1学期より良くなっていると自覚した生徒が多かったからだと思う。</p> <p>○職員アンケートから「諸検査結果の分析と活用」と「研修成果の共有化」については、前期より数値は上昇しているものの、他の項目に比べるとやや低い。12月に行われた県学習状況調査結果の分析や、道徳教育については、このあと校内研修会の場を設けて全体で共通理解を図る。また、「他の先生の授業を見て勉強したい」という声もあった。3学期も相互授業参観期間を設け、互いの授業を見て学び合う機会を作り、授業における「北陽スタイル」の継承・発展につなげる手立てとしたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 授業改善の推進	(6) 学び合い高め合う授業づくり	学習過程に応じた共通実践事項の設定と実践 各教科の研究課題設定と実践 諸検査データの分析と活用	3	4
5 研修の実施及び活用	(7) 「チーム北陽」の資質向上を目指した研修の充実	全員参加型の校内研究会の推進及び相互授業参観の実施 校外研修の促進と研修成果の共有化	3	3

(○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価 {5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題}

[4に関連するデータ]

- 学習過程に応じた共通実践事項は実践されていたか。
- 各教科の研究課題への取組はなされていたか。
- 諸検査データの分析と活用がなされていたか。
- 「授業のあいさつ」「聞く態度」「話し方」など、学習の約束を意識して学習できている。
- 自分の思いや考えを相手にしっかり伝え、話し合いながら学習を深めている。

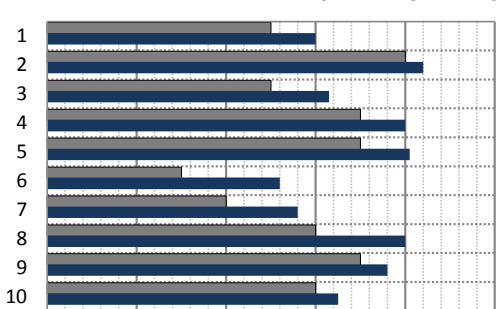
H30前期	H30年度
3.8	4.2
3.6	3.7
3.5	3.6
3.7	3.8
3.6	3.7



○生徒による授業評価

- 1 チャイム前学習を行っていましたか。
- 2 学習課題(めあて)は、学習することやゴールがわかりやすいように示されていましたか。
- 3 先生の質問に対して、自分の考えや思いをもちましたか。
- 4 黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。
- 5 発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。
- 6 質問や友達の意見を受けて、わかりやすく伝えようとしていましたか。
- 7 自分の意見と比べたり、深めたりするような聞き方をしていましたか。
- 8 学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したりする時間が確保されていましたか。
- 9 学習内容はわかりやすいですか。
- 10 あなたは、意欲的に授業に取り組んでいますか。

生徒の授業評価【上:前 下:後】

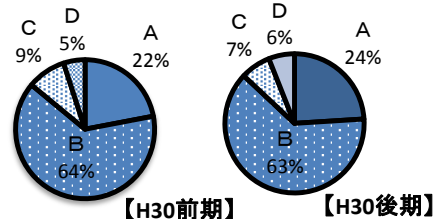


□学校での教科指導について、お子さんは

- どのように言っていますか。
- A どの教科も十分指導されている。
 - B どちらかというによく指導されている。
 - C どちらかというあまりよく指導されていない。
 - D どの教科ももっとよく指導してほしい。

H30前期	年度
A	22
B	64
C	9
D	5

(単位:%)



[5に関連するデータ]

- 全員参加型の校内研究会や相互授業参観は効果的か。
- 校外研修の促進と研修成果の共有化は図られたか。

H30前期	年度
4.3	4.5
3.4	3.6

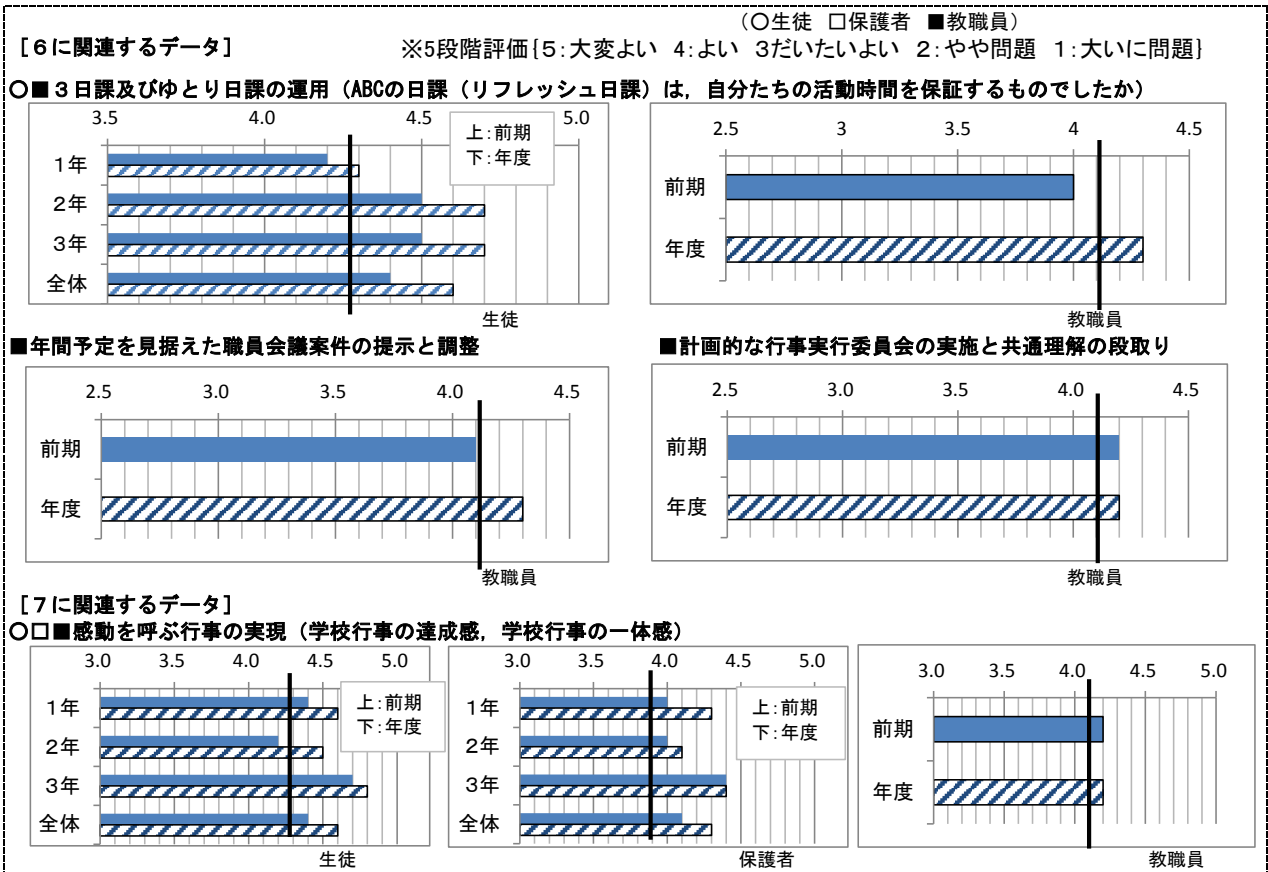


ア 学校運営の状況

Ⅲ 特色ある教育活動

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
地域に根ざした特色ある教育活動に、誇りと気概をもって取り組んでいる。	前期	良好	良好	北陽中の活動のスタイルが浸透し、安定した教育活動ができてきたので、今後も積み重ねていってほしい。学校行事について達成感を問うアンケートでは、3年生の数値が高く、思う存分に取り組み、力を発揮できたという満足感が大きかったのだろう。職員から出されている課題について、よりよい手立てを工夫し取り組んでほしい。
	年度	良好	良好	関連データからも、全てにおいて数値が上昇している。特に、生徒、保護者の伸びが大きい。生徒たちは日課の運用について、自分たちの活動時間を保証するものと好意的に捉えている。学校行事に向けての準備や練習に十分な時間を使えることが、行事での達成感につながっている。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○開校期の3年が終わり、新たな成長サイクルが始まる年度となった。校長から提示された「北陽中の強み、本質を見える形にする」ことを目指し、生徒・教職員・地域が一体となって取り組んでいる。アンケートの結果は、生徒と職員の項目が昨年度より向上しているものが多く、北陽中の活動のスタイルが浸透し、安定した教育活動ができていたことが見て取れる。保護者アンケートの数値はほぼ横ばいだが「学校行事を通して、学校のねらいや生徒の思いが伝わりましたか」の項目は少し数値が低かった。</p> <p>○後期の取組として「次の活動への見通しをもつための手立ての工夫」を挙げたい。アンケートの数値は向上したが、職員の記述には、会議案件や授業交換、日課について課題が示されている。生徒や職員が集中して活動に取り組めるように、情報提供の仕方やタイミングを考慮して適切に伝える工夫をしたい。</p> <p>○「北陽中の強み、本質を見える形にする」取組は、学校行事への生徒や保護者の評価、学力向上フォーラムでの、各地の先生方からの感想などからも、かなりの高評価であったと見て取ることができ、ある程度目標を達成できたのではないかと考える。職員の評価が他に比して低いのは、現状に満足せず、さらなる向上を目指したものと前向きにとらえたい。</p> <p>○それらの活動を支える日課の工夫、時間割の弾力的運用(自習を回避する取組)は、先生方の協力もあり大きなトラブルもなく進めることができた。職員会議資料を前渡りする取組も、運営委員会メンバーの協力のもと始めたところである。会議案件の内容の共通理解という点は、工夫の余地がありそうである。先生方や生徒たちへの情報提供のあり方はどうあればよいか、また学校の取り組みを保護者や地域に知らせるにはどうすればよいか考えて取り組みたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 特色ある教育課程の編成	(8) 生徒の活動を支える日課の工夫	2日課及び特別日課の運用	4	4
	(9) 教育活動を支える見直しある提案	年間予定を見据えた職員会議案件の提示と調整		
7 学校行事等の計画	(10) 感動を呼ぶ学校行事の実現	計画的な行事実行委員会の実施と共通理解の取組	4	4
		地域連携活動の継続(教育課程及び行事予定への位置付け)		



イ 生徒の状況

IV 主体的な学習態度・確かな学力

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒が主体的に学習に臨み、基本的学習習慣と確かな学力を身に付けるように取り組んでいる。	前期 おおむね 良好	おおむね 良好	主体的な学習態度の育成においては、「学習がんばり表」の活用、「学習goodさん」「家庭学習goodさんコーナー」などで手立てがとられている。個人差もあるというので、個別に指導しレベルアップしていきたい。家庭学習についてのアンケートでは、生徒の自己評価と保護者とは開きがある。家庭学習の時間や量を問う視点から、内容や質に目を向けさせていく取り組みが今後の課題である。
	年度 おおむね 良好	良好	実際の生徒の姿からも、学力向上フォーラムの参観者の声からも、学校での学習態度や授業の充実については高く評価したい。生徒アンケートでは、「家庭学習」「学習習慣」の2項目が前期より向上しており、主体的な学習態度の育成への取組が成果が上げつつある。ドリル学習についても、学習内容が定着することを生徒自身も自覚しているので、目標をもたせたり、意欲を継続させる工夫を図りながら確かな学力を育ててほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	○「主体的な学習態度」の学習習慣については、学習がんばり表の活用、個々のがんばりを認める「学習goodさん」の紹介、1年生による先輩の授業参観などを実施し、全体として大体身に付いた。家庭学習については1年生の課題提出率が高く、昨年度小中連携で力を入れた成果が見えた。今年度からは「家庭学習goodさんコーナー」を全学年共通で掲示している。前期はいくつかの手立てを講じたものの、大きな効果は得られなかった。今行っている手立てを見直し、より効果が得られるように工夫したい。		
	○「授業の充実」については、教職員アンケートの評価が低い。教職員が、共通実践事項の徹底、まとめや振り返りの充実、学び合いの深化に向けた取り組みに課題を感じているからだ。研修部と連携し、具体的な取り組みを再検討し、実施したい。		
	○「生徒の力を高める諸活動」のドリル学習については、生徒の実態に合わせて内容を検討し、実施した。また、読書活動については、図書カードを新しくしたり、図書室のカウンターや図書室前の図書コーナーなどを整理したり、生徒の希望図書を購入したりし、図書環境整備ができた。しかし、図書室利用者数や読書時間が少ないことが課題である。図書委員会を中心に手立てを講じたい。		
○「主体的な学習態度」の学習習慣については、北陽中が目指す一定の基準までは達した。今後は今までの取り組みの継続と、個々の伸長をより意識した手立てを工夫したい。家庭学習については、効果的な家庭学習ノートの紹介や家庭学習についてアドバイスをし合うフレンドリー集会により、学習内容の質に高まりが見られた。一方で、1年生の保護者の評価が0.2ポイント下がり、全体としての評価も下がった。しかし、1年生の課題提出率は依然として良く、質も良くなってきている。そこで、3学期は保護者に家庭学習の成果を見ていただく期間を設けたい。			
○「授業の充実」については、学力向上フォーラムで見た成果と課題をもとに、研修部と連携し、さらに深化できるように取り組んでいきたい。			
○「生徒の力を高める諸活動」のドリル学習については、マンネリ化しないように、3学期は全学年統一の問題で行い、生徒の意欲を喚起したい。また、読書活動については、生徒の希望図書の購入で図書室の利用者数が増えた。来年度は、月ごとに図書室利用の学級や本のジャンルを指定したり、おすすめの本を紹介したりするなどして、個々の読書の幅を広げたい。			

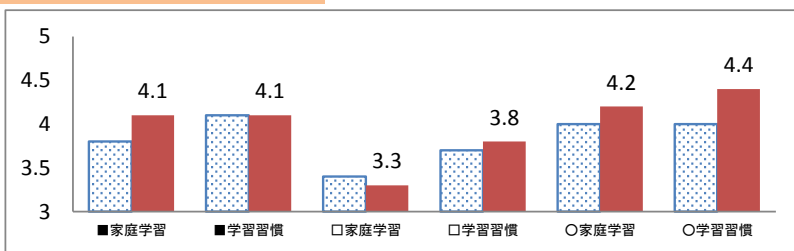
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 基本的学習習慣	(11) 主体的学習態度の育成	各教科共通の「学習習慣項目」の提示と実践 家庭学習充実のための働きかけ(PUN, 各教科の学習アドバイス、ノート展)	3	3
9 確かな学力	(12) 授業の充実	1単位時間の効果的なコーディネート(50分ものさし、授業展開の工夫、まとめの充実) ハンドサインや話型を手がかりにした言語活動の充実	3	3
	(13) 生徒の力を高める諸活動	ドリル学習、読書活動の実施		

(○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価[5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

[8に関するデータ]

主体的学習態度の育成

グラフ 左:前期 右:年度 数値:年度

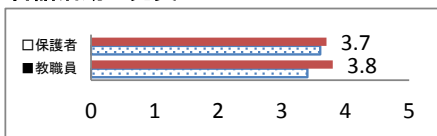


[9に関連するデータ]

授業の充実

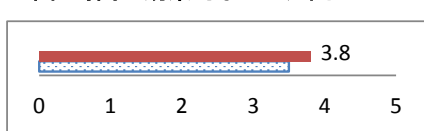
グラフ 下:前期 上:年度 数値:年度

◆言語活動の充実



	前期	年度
○生徒	4.7	4.8
○生徒	4.3	4.5
○生徒	4.4	4.6

■1単位時間の効果的なコーディネート



	前期	年度
○生徒	4.8	4.8
○生徒	4.5	4.6
○生徒	4.8	4.8
○生徒	4.6	4.8

生徒の力を高める諸活動

	前期	年度
○生徒	4.1	4.4
■教職員	3.6	4.0

イ 生徒の状況

V 自主的・自律的な生活,望ましい生活習慣

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
生徒一人一人の心身の状態に目を向けながら、明るく心のこもった挨拶など規律ある落ち着いた生活を実現している。	前期	おおむね良好	おおむね良好	あやめ運動では挨拶の質が低下しているとのことだが、委員会活動等での手立てを工夫し、生徒主体の活動として盛り上げてほしい。健全な生活習慣の育成は、家庭との連携が大切なので今後も連携を密にして進めてほしい。特にメディアについては、生徒も含め決まりのある生活ができるように進めたい。家庭の協力が課題である。 メディアコントロールでは、全校生徒が一律に同じ約束事を実行するよりは、家庭での話し合いや本人の気持ち、状況を基にして、各自が決めた「マイメディアコントロール」でもいいのではないだろうか。今後も、家庭との効果的な連携により、望ましい生活習慣につなげていきたい。様々な家庭環境に置かれた生徒がいる中、今後も生徒についての情報交換を密にしながら、機会を捉えて、学級担任、副担任、スクールカウンセラー等による教育相談を実施してほしい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○「あやめ運動」については、委員会活動等で意識をした活動がなされていたが、挨拶の質が低下しているように感じる。全体的に人前で大きな声を出して挨拶をすることを苦手とする生徒が多いように感じる。「あいさつ名人」の取組を継続しながら、挨拶の良い生徒をその場(周りに他の生徒がいるとき)で褒め、教師からも積極的に挨拶をしていきたい。「形式的な挨拶」から「心からの挨拶」に意識させていきたい。また、校内での挨拶はできるが、校外での活動時(各大会や地域活動など)の挨拶はあまりできていないというのが現状である。形式的な取組ではなく、相手に対する礼儀と感謝の気持ちを表す大切で必要な行いであることを伝えながら指導していきたい。</p> <p>○「メディアコントロール」については、保護者の意識を高めるためにも、PTA等で講話や講習会を開催したり、保健だより等を利用して情報提供を継続したりしていきたい。</p> <p>○「くまもり隊」については、関係機関との連携によりクマの出没情報の迅速な情報提供と登下校の安全対策が図られた。今後も継続して取り組み、生徒の安全確保に努めていきたい。</p> <p>○挨拶については、前期も話題になった項目だが、校門での挨拶はほぼ全員挨拶をするが、校内では学年が下がることに挨拶をする率が低下している。今後も、委員会での呼びかけや標語活動も実施していくが、教師側からの声かけや、「いつでも・どこでも・誰にでも・遠くからでも」積極的な挨拶を実施することで意識付けをしていきたい。</p> <p>○悩み事の相談については数値が上がっているため、引き続き「いつでも教育相談」の意識で対応していきたい。また、生徒に係る情報を素早く掌握し、すみやかな保護者対応を心がけていきたい。</p> <p>○メディアコントロールについては、生徒へは教育相談、学年や全校集会などで指導し、保護者へは、PTA懇談会や学年通信や保健だよりを通して情報提供をしているが評価が低い。今後も小学校とも連携し、折に触れて指導していきたい。</p> <p>○「くまもり隊」については、関係機関や地域の方々との協力のおかげで、安全に登下校ができ感謝している。来年度も状況に応じて開始し、11月中旬(自転車通学停止日)まで実施したいと考えている。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
10 規律ある学校生活	(14) 集団生活のきまりの理解と遵守	「あやめ運動」の推進と自律心の育成 生徒指導共通実践事項の設定と実施 地域・保護者や近隣小学校と連携した安全指導の推進	3	3
11 心身の健康の保持増進	(15) 健全な生活習慣の育成	保護者を巻き込んだメディアコントロール運動の定着 早寝、早起き、朝ごはんの啓発と体力向上の働きかけ	3	3
12 教育相談の実践	(16) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (17) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上	「いつでも、どこでも」教育相談の推進 多様な手立てによる生徒理解 定期的な生徒を語る会と関係機関と連携した事例検討会の実施	4	4

(○生徒 □保護者 ■教職員)

【10に関連するデータ】

※5段階評価(5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題)

(14) 集団生活のきまりの理解と遵守

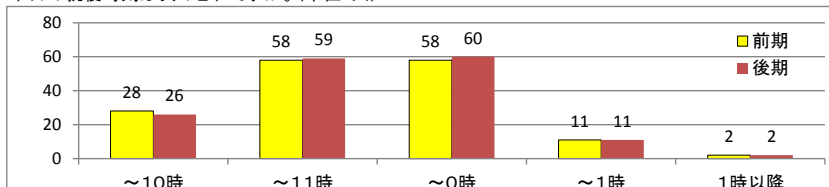
- 「あいさつをしよう」いつでも、どこでも、誰に対しても、明るくさわやかなあいさつをすることができましたか。
- 「やくそくを守ろう」学校生活のきまりや約束などを、しっかり守ることができましたか。
- 「めあてをもとう」いろいろなことに、めあてをもって取り組む事ができましたか。
- 「あやめ運動」(元気なあいさつ、やくそくを守る、めあてをもって)により、規律ある学校生活が実現していると思いませんか。
- 関係機関や小学校・地域と連携した安全指導が、効果的に進められていると思いませんか。
- 生徒指導共通実践事項についての共通理解が図られ、全校体制で指導の徹底が図られていたか。
- 安全指導を推進する上で、関係機関や小学校・地域と連携を図っていたか。

H30前期	H30年度
4.2	4.3
4.3	4.4
4.2	4.3
3.7	3.6
3.9	3.7
4.0	3.9
4.6	4.2

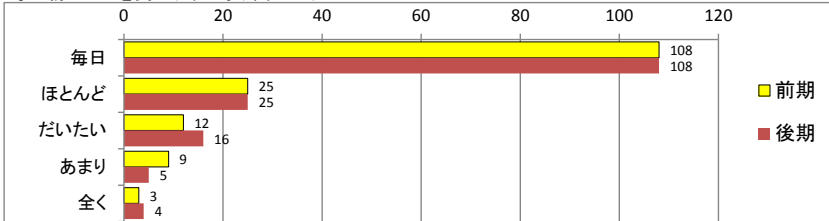
【11に関連するデータ】

(15) 健全な生活習慣の育成

○平日の就寝時刻は次のどれですか。(単位:人)



○毎日朝ごはんを食べますか。(単位:人)



H30前期	H30年度
3.7	3.6
2.9	3.0
3.3	3.2
3.3	3.2

- メディアコントロールを意識した生活ができましたか。
- 家庭でのメディアコントロールの働きかけは適切ですか。
- 学校の取組(チャレンジカードなど)は、「早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き・メディアコントロール」の意識化に役立っていますか。
- 「メディアコントロール運動」の取組について、家庭の理解を得る働きかけが行われていたか。

【12に関連するデータ】

(16) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (17) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上

- 悩み、困りごとを、友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いませんか。
- より良い学級、学年にしようと努力できましたか。
- 担任・副担任やSCによる教育相談が機を逃さずに行われていたか。
- 多様な手立てによる生徒理解が行われていたか。
- 生徒を語る会や事例検討会が確かな状況把握をもとに行われていたか。

H30前期	年度
4.1	4.2
4.1	4.4
4.4	4.1
4.1	4.1
4.0	3.8

イ 生徒の状況

VI 思いやりの心、たくましい心

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
一步前を出て積極的に活動に取り組み、お互いの良さを認め合い、協力し合うことができる、豊かな人間性を育てている。	前期	良好	良好	副担任制の導入により、生徒の見取りがより丁寧で、良さを認め、よりよい活動への指導、支援ができるようになっていく。学級・学年づくり、学校行事への取り組みに関する生徒の自己評価は高く、活動を通して達成感を味わい、成長している姿がうかがえる。その中で、周囲になじめなかつたり、悩みを抱えている仲間へ気付き、声をかけたり、学級の仲間と包んでいこうとする思いやりの心を育ててほしい。
	年度	良好	良好	「朝の会や帰りの会、学年集会等の工夫」「学校行事を生かした学級・学年集団の育成」について、教師側の自己評価が前期より大きく向上しており、先生方の取組が成果につながった手応えが感じられる。「学級づくり」「学校行事での達成感」についての生徒の達成感も高い評価であり、北陽中の勢い、エネルギーが感じられる。
自己評価の概要と学校の改善策	○朝の会では、日直がスピーチしたりスピーチをしたことに対して質問をしよう場面を作っている。帰りの会では、生徒が誰かのために行った行為を紹介し合う「ちよいぼう」、今週特に頑張った生徒を決める「今週の輝く生徒」など、生徒が本音で語り合える場面を意図的に設定することができた。担任と副担任が学級を見ることによって、生徒の様子や提出物を細やかに見取ることができ個別に対応することができた。担任と副担任が様々な学級での活動に入ることによって、1+1=2+αの効果を生み出せるように、これからも連携を密にして取り組んでいきたい。学級委員や実行委員、委員会をさらに活用して、生徒の主体性を育てたい。 ○学校行事(運動会)は、学級委員や実行委員、各担当リーダーが中心となって取り組み、各学級を一つにまとめることができた。限られた時間の中で、主体的に練習計画を立て、目標に向かうことができた。 ○生徒総会の全校協議では、あやめ運動について多くの生徒が意見を発表することができた。また、友だちの発言を良く聞きながら、つなぎ合うことができていた。議長の進め方や生徒会長のとめ方も良く、生徒同士で深まりのある話し合いをすることができた。委員会活動については、自ら進んで取り組んでいる生徒が一部にとどまっている現状である。「北陽中のために自分たちは何ができるだろうか」という主体的な意識をもたせて、委員会活動に取り組ませたい。 生徒、保護者、教職員の全ての項目が、前期より高い数値を示していた。これは学校生活の中で、生徒が学級、委員会、北陽中祭など様々な集団で、一步前を出て主体的に活動することができていると言える。それを支えているのは、学級担任、副担任、委員会担当、北陽中祭のそれぞれの部門、班の担当者が、連携を密にしながら生徒を見取ることができたからである。 ○朝の会では、前期で取り組んだことに加え、委員会活動を充実させることができた。自分たちの委員会の取組を、それぞれの委員が各学級で伝えることによって、朝の会や帰りの会で活躍する場面が増えたり、より良い学級、学校にしようとする気持ちを高めたりすることができた。 ○1、2年生は学年委員を立ち上げ、学年行事を企画することによって、よりよい学級、学年にしようとする意識を高めることができた。 ○北陽中祭に向けて、部門長や班長が中心となり、創意工夫された取組をすることができた。職員も生徒の思いを形にできるよう、生徒と一緒に計画的に進めることができ、成し遂げる気概にあふれた学校行事にすることができた。 ○11月以降、スクールバスの運用が始まり、委員会活動をする時間の確保については工夫の余地がある。日常の活動をする分には支障はないが、話し合ったり何かを作ったりするなど、クリエイティブなことをする時間の確保が難しくなった。また、フレンドリー集会の運営についてもさらなる改善の余地がある。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
13より良い集団生活を目指す学級・学年活動	(18) 本音で語り合える学級・学年づくり	TTIによる学級経営の推進(副担任制度の導入と活用) 朝の会、帰りの会の工夫、話し合い活動の充実、学年集会の実施	4	4
	(19) 学校行事を生かした「高め合う学級・学年づくり」	リーダーを中心とした学級・学年集団の育成(リーダーシップ、フォローアップの育成)		
14新しい校史を刻む気概ある生徒会活動	(20) 「北陽魂」が見える気概にあふれた学校行事	生徒会による生徒主体の学校行事づくり	4	4
	(21) 「あやめ運動」を通じた創造的委員会活動の推進	「あやめ運動」を通じた新しい校風を創る日常活動の創意工夫 全校生徒が主体的に取り組める定期集会の工夫		

(○生徒 □保護者 ■教職員)

※5段階評価 {5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題}

[13に関連するデータ]

(18) 本音で語り合える学級・学年づくり

	H30前期	H30年度
○お互いの良さを認め合いながら、協力して学級づくりに励むことができましたか。	4.4	4.6
○朝の会や帰りの会で活躍する場面がありましたか。	4.1	4.4
○担任と副担任は協力して、学級のために指導や支援をしてくれましたか。	4.5	4.6
■副担任制を活用した学級経営が図られていたか。	4.2	4.4
■朝の会や帰りの会、学年集会等は、生徒の自主性を育てる工夫がなされていたか。	3.8	4.3

[14に関連するデータ]

(19) 学校行事を生かした「高め合う学級・学年づくり」

○生徒総会やフレンドリー集会では、みんなと意見を出し合い、考えを深めることができましたか。	3.9	4.2
○よりよい学級、学年にしようとする努力ができましたか。	4.1	4.4
■学校行事を生かしながら、リーダーを中心とした学級・学年集団の育成が図られていたか。	4.1	4.5

(20) 成し遂げる気概にあふれた学校行事

○学校行事での達成感ほどの程度でしたか。	4.4	4.6
□学校行事は、各テーマのもと、学級や学年、全校のまとまりが感じられる活動となっていましたか。(運動会、修学旅行、校外学習、激励会など)	4.1	4.3
□学校行事を通して、学校のねらいや生徒の思いが伝わりましたか。	3.9	4.0
■「北陽魂」を意識させながら、生徒主体の学校行事が創られていたか。	4.4	4.5

(21) 「あやめ運動」を通じた創造的委員会活動の推進

○よりよい学校を作ろうと、生徒会活動に積極的に取り組みましたか。	3.9	4.2
○他の人の役に立つ行動や他の人を思いやる行動ができましたか。	4.2	4.3
■日常の委員会活動では、「あやめ運動」を意識しながら創意工夫が行われていたか。	3.4	3.5
■生徒集会(生徒総会、F集会、激励会)では、主体的に活動するための手立てを工夫できたか。	4.1	4.2



生徒総会



深輝～燦然と輝いた北陽中祭



地域の方と結びつきを強めた防災活動

◇8月の地域防災活動への参加状況(人)

◇1月の地域防災活動への参加状況

生徒	地域住民	小学生
137	140	48

生徒	地域住民	小学生
151	107	117

ア 学校運営の状況

Ⅶ 保護者・地域との連携

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
保護者地域との信頼関係を積極的に構築するとともに、具体的連携の基礎を築いている。	前期	おおむね良好	地域の行事に北陽生が参加する姿が多く見られる。学校報は生徒のがんばりを知りうる手段なので、多くの地域住民が楽しみにしている。 保護者・地域連携で、学校報などによる情報発信は欠かせない。地域連携・協働で子どもを育てていく上でも大切である。各種の地域行事・地域での活動に、中学生が参加してくれて地域に活力を与えている。逆に、地域の大人たちとふれ合うことで、中学生も将来の自己を考えるきっかけとなっているのではないだろうか。また、積極的に中学生を受け入れ、学校への協力を惜しまない地域の方々のおかげと感謝したい。
	年度	おおむね良好	
の自己改善評価の概要と学校	<p>○学校報を全戸に配布する取組は保護者や生徒の評価も高いので今後も継続していきたいが、配付忘れがないように生徒に働きかけていきたい。学期末のPTAは、保護者の要望をもとにした講演会を実施したことで、平日ではあったが参加者も多くおおむね好評であった。</p> <p>○子どもハローワークには、小学校のボランティア活動や夏休みを利用して参加する生徒が多かったが減少傾向にある。夏の防災活動は雨天のため、昨年より参加人数が少なかった。それでも地域の方が合計で140名も参加して下さった。多くの町内が非常食をテーマに感想交流をした。「普段から備蓄しておきたい。」「水だけで食べられることが良い。』などという感想が出されていた。</p> <p>○生徒がいない町内も増えてきており学校報配布は大変であるが、学校と地域をつなぐ有効な手立てと言えるし、協力してくださる方との交流もあり、大事にしていきたいと考えている。学校報配布については評価が高いことから、生徒にも学校報配布の意義を伝えながら、確実な配布を継続していきたい。2学期末のPTAは、保護者の要望をもとにした食生活に関する「ごはん塾」を実施した。平日の午前中からの日程であったためか、参加者は少なかったが大変好評であった。今後もPTA活動の活性化を図るための内容を工夫していきたい。</p> <p>○長期休業中や土日を利用して、子どもハローワークや地域のボランティア活動に参加する生徒が多かった。また、3年生や吹奏楽部の公民館祭への参加、施設やこども園でのボランティアは、大変好評である。参加を通して、地域への貢献という意識を育てていきたい。冬の防災活動の参加者は、小学生、中学生、地域の方を合わせると375名にもなり、地域に根付いた活動になっている。「助けられる人から助ける人へ」のテーマに向かって、事前事後活動を充実させて取り組んでいきたい。</p>		

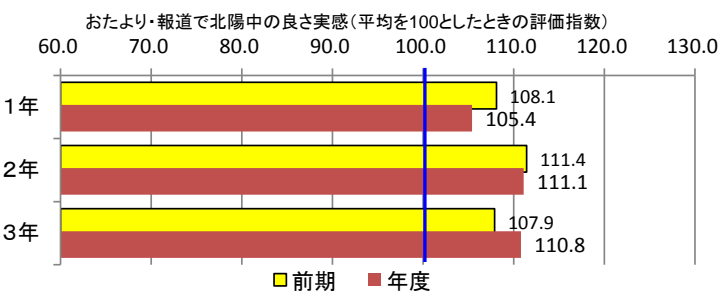
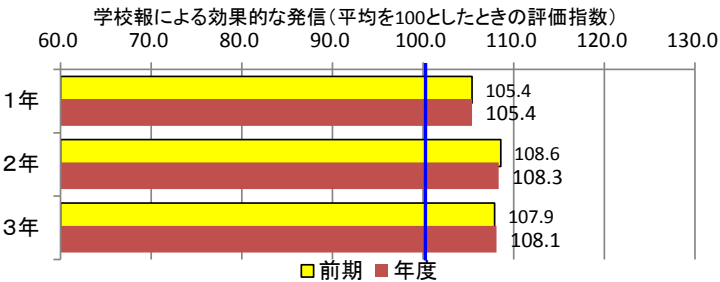
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
15 情報の発信の工夫	(22) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信の発行	統合3校区を網羅する学校報配布システムの構築と運用	4	4
16 大館盆地の教育力の活用	(23) PTA活動の活性化	PTA活動への積極的支援と働きかけ	3	3
	(24) 職場体験・子どもハローワークの積極的活用	将来に対する夢や目標を育む実践		
	(25) 防災活動や地域行事への積極的な参加と貢献活動	3地区の地域行事に対する参加計画の立案・積極的アピール 防災活動を柱とした地域ボランティアの推進		

[15に関連するデータ]

(22) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信

【□保護者の評価】

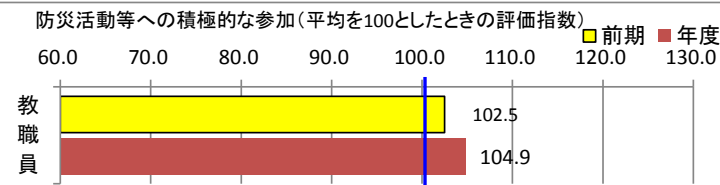
(評価平均 1年3.9 2年3.9 3年4.0)



[16に関連するデータ]

(25) 防災活動や地域行事への積極的な参加

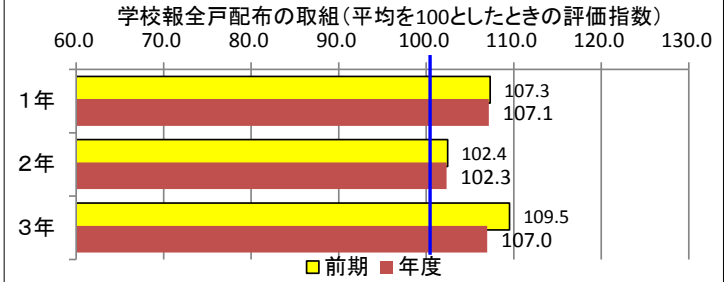
【■教職員の評価】(評価平均 3.9)



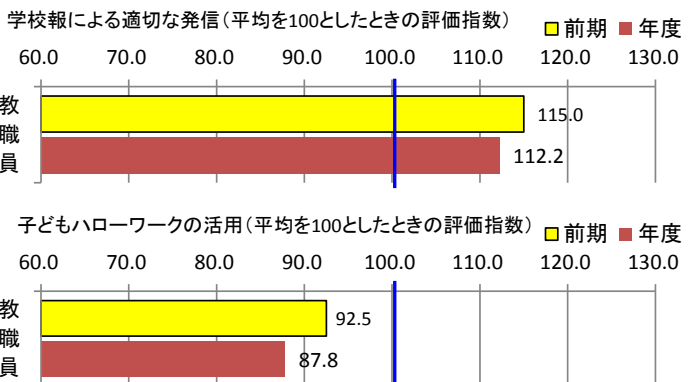
○生徒アンケート全26項目 □保護者アンケート全19項目 ■教職員アンケート全39項目
アンケート種別ごとに、評価値の平均を100としたとき、それぞれの項目の評価指数を算出

【○生徒の評価】

(評価平均 1年4.5 2年4.3 3年4.6)



【■教職員の評価】(評価平均 4.1)



◎子どもハローワークの参加延べ人数 133人が参加(12月現在)

【地域の方々等が参加した諸行事と人数】

なべっこ(10/12)	学年PTA(12/3)	地域防災活動(1/10)
婦人会 34名	保護者 65名	参加者375名

全 体 コ メ ン ト

平成31年2月1日（金）
北陽中 2階会議室

総合コメント

評価書の表紙の写真が、現在の北陽中学校の状況を見事に表している。笑顔の全校生徒たち、それを見守る先生方、応援してくださる地域の方々、そのまとまりや雰囲気嘉手納中の生徒たちやその他の大人たちを引きつけ、さらに大きな輪になっている。現在の北陽中学校は、間違いなく良好な状況にあるので、課題の解決に取り組みながら『大館市で最良の中学校』を目指してほしい。

口頭による助言

○保護者のヒアリングから

- ・家庭で、子どもは学校の様子をよく話題にしている。
- ・PTA役員については、より多くの保護者に関わってほしいという気持ちがある。

○生徒のヒアリングから

- ・大変しっかりとした受け答えができる。
- ・1・2年生については、もっと宿題を出してほしいという希望があった。
- ・学校生活は楽しいし、学級の雰囲気もよいと感じている。
- ・あやめ運動の中で最もできているのは「あ」の元気なあいさつだと思う。逆に、あまりできていないと感じるのは「や」。なぜなら、学級で提出物がそろわないことや休み時間の声の大きさなどが課題と感じているから。

○職員のヒアリングから

- ・PTAについては、平日開催ということもあるせいか、他地区に比べて参加率が低いように感じる。行事への参加はかなり多い。

北陽中学校 学校関係者評価委員

大坂谷 征志

佐藤 博昭

小坂 正昭

菅原 晶子

高松 修二